

■(徳川)田安宗武 国学者、歌人。徳川御三卿田安家初代当主。松平定信の父。「国歌八論」論争で近世歌壇に影響大。

たやすむねたけ
西洋紀聞・・・1715＝江戸赤坂の紀州藩邸で、竹本正長の女を母に、_徳川吉宗の子に生まれ、
徳川吉宗將軍1716＝1歳：_父が8代將軍となる。

近松没・・・1724＝9歳：

梅岩心学始・1729＝14歳：元服し従三位左近衛権中将に任ぜられ右衛門督も兼ねる。

・・・1731＝16歳：_江戸城田安門内に邸を賜わり、田安家を創立した。
享保大飢饉・1732＝17歳：
・・・1733＝18歳：
宗武は文武和漢の学問に通じて特に国学・和歌を好んだ。また古流の意識が強く服飾や楽曲関係の故実にも詳しくあった。

この間、幕府の下問に答えるべく、_江戸に出てきていた国学者荷田在満に師事、

公事方御定書1742＝27歳：父吉宗から自著の「式内染鑑」を与えられる。*荷田在満に命じて提出させた歌論書「国歌八論」は和歌の根本問題を論じ、在満、真淵との間に展開された「国歌八論」論争は近世の歌壇に大きな影響を及ぼした。
石田梅岩没・1744＝29歳：「臆説剰言」、
徳川吉宗隠居1745＝30歳：参議に進み、摂津・和泉・播磨・甲斐・武蔵・下総等采邑十萬石が与えられ、
菅原伝授十・1746＝31歳：*在満と対立し、その推薦で交替した賀茂真淵を師と仰ぐようになってまとめた「歌体約言」は和歌の本質や理想を説き、歌は心の「まこと」を重んじて素直な古風、古言を入れ万葉の歌風に及んでいる。
義経千本桜・1747＝32歳：將軍就任を望んでいたため、父が長幼の序で、後継將軍にした異母の長兄家重の欠点を列挙して諫奏したため、父吉宗に咎められ、この年から3年間の謹慎の沙汰を受けている。

徳川吉宗没・1751＝36歳：
_以後は、日本の古典に関する注釈に力を入れて、多くの書を成し、

大岡忠光没・1760＝45歳：

久留米藩工事1768＝53歳：権中納言となる。
・・・1769＝54歳：

御蔭参流行・1771＝56歳：*「服飾管見」を最後に、没した。
「天降言」「伊勢物語註」「梅曲」「狩袴考」「五函秘説」「くさむすび」「古事記詳説」「古事記頭書」「摘要冠辞考」「服飾漫語」「やまさと集」「悠然院様御詠草」など。